



輝ける「かみきた人」



上北地域県民局「地域づくり寺子屋チーム」企画  
上北地域紹介パンフレット

## はじめに

青森県の上北地域には、「人」という切り口で見ると様々な分野で活躍している「存在感がある人」がたくさんいます。このパンフレットは、若手青森県職員が、彼ら・彼女ら“かみきた人”の魅力を取材し、少しでも多くの人に発信することで、上北地域の存在感を向上させたいという想いのもと作成しました。

「上北地域？あまりよく知らないな」という人にも、よくよく知っている人にも、“かみきた人”の活躍を通して新たな上北の一面を見つけてもらえると嬉しく思います。

## 庁内寺子屋プロジェクト推進事業「地域づくり寺子屋」とは

青森県では、県行政が抱える課題についての調査研究を通して、県職員のチャレンジ意欲を引き出すこと等を目的とした庁内寺子屋プロジェクト推進事業を実施しています。

上北地域県民局においても、当事業の一環として若手・中堅職員の施策立案能力の向上等を目的とした「地域づくり寺子屋」を行っており、平成29年度は「上北存在感UPプロジェクト～上北人の活動から見る地域の魅力～」をテーマに調査研究を行いました。

本パンフレットは上記調査研究の一環として作成されたものです。



【編集・発行】上北地域県民局  
地域づくり寺子屋チーム

【この冊子に関するお問い合わせ】  
上北地域県民局 地域連携部  
〒034-0093 青森県十和田市西十二番町20-12  
TEL:0176-22-8194

「今日はどれにしようか」

お米を選ぶワクワク感を

ペボラ  
(株)PEBORA

かわむら こうと  
企画営業担当 **川村 航人**さん



川村航人さん。「ペボラでお米のイメージを変え、日本人のお米文化を広げていきたい」と語る。

2016年にグッドデザイン賞を受賞したペボラ（ペットボトルライス）は、これまでのお米の単位の常識を覆した商品だ。2合単位のお米をペットボトルに詰めたことで、誰でも手に取りやすく、消費しやすくなった。そのペボラのデザインに携わったのが、三沢市出身の川村航人さんだ。

八戸市民病院のすぐ近くに(株)PEBORAが運営している、おいしいお米が食べられるご飯屋さんKOMEKUUTO八戸店がある。そこで副店長を務めている航人さん。お店に入るとすぐに目に飛び込んでくるペボラの商品棚は「ケーキ屋で今日は何のケーキを食べようか選ぶときのワクワク感をお米にも持って

ほしい」という航人さんの想いが見事に表現されている。

ペボラで海外進出の準備も整えているとのこと。若者が持つお米のイメージを変え、日本が誇るお米文化を世界に発信していきたいと意気込む。航人さんは、出身地の三沢市について「アメリカの文化と日本の文化が混在していて面白い」と語る。こうしたグローバルな視点は三沢市の環境で培ったものなのかもしれない。

今後もどんどん成長していく航人さんとペボラに乞うご期待！



「お米のテーマパーク」KOMEKUUTO八戸店。イトインスペースや、米ぬかを使ったふりかけなどのオリジナル商品を取り揃えているセレクトショップを併設している。2階にはダンススタジオも。

#### 株式会社PEBORA（ペボラ）

青森県三沢市大字犬落瀬字古間木154-264

TEL:0176-27-1265

URL: <http://pebora.jp>



#### KOMEKUUTO八戸店

青森県八戸市田向2丁目14番10号

TEL:0178-51-6070

URL: <http://www.komekuuto.jp>

#### KOMEKUUTO新宿マルイ本館店 (POP-UP SHOP) ※期間未定

東京都新宿区新宿3-30-13(新宿マルイ本館5F)

TEL:03-6709-9851



“人はおいしいものを食べていれば  
幸せでいることができる”

# ベジキッチンまいまい

ささき かずえ  
代表 **佐々木 和枝**さん



- 👉ベジキッチンまいまい  
代表、佐々木和枝さん。  
食をテーマに様々な活動を行う。
- 👉取材当日のランチメニュー。  
おいしさが伝わってくる。



今年で開店5年目を迎える三沢市の惣菜店「ベジキッチンまいまい」は、自家製の米や地元産の朝採れ野菜を使った料理が自慢で、お弁当の販売・配達のほか、店内で食事の提供もしている。そんな繁盛店の代表を務めているのが三沢市出身の佐々木和枝さんだ。

佐々木さんは、農業と精米所を営む家に生まれ、青森県営農大学校を卒業後に家業を継ぎ「地域の方が気軽に集まって世間話ができる場所をつくりたい」という想いで、2013年12月にベジキッチンまいまいをオープンした。

ベジキッチンまいまいの最大のウリは、提供する“料理”と“雰囲気”。お店で販売するお弁当のおかずは毎日変えるようにしており、お客さんを飽きさせない

工夫をしている。加えて、店内には広々とした座敷があり、子供連れのお客さんもゆっくりと食事ができるようになっており、「街なかと違い、うちの店だと座敷で多少にぎやかに遊んでも大丈夫。お客さんもその賑やかさを楽しんでくれています」と佐々木さんは言う。このように、地域の憩いの場としても親しまれている。

「人はおいしいものを食べていれば幸せでいることができる」という想いのもと、佐々木さんは“食”をテーマに特産品の開発や、三沢ならではの国際交流など様々な活動も行っている。今後も彼女の活躍から目が離せない。



- 👉栄養満点でおいしいランチ(左)
- 👉お弁当(右)



## ベジキッチンまいまい

営業時間：10:00～17:00  
(ランチ11:00～13:30L.O.)  
定休日：日曜・月曜・祝祭日  
※営業時間、定休日は変更となる可能性がありますので、HPかfacebookで確認ください。

青森県三沢市大字三沢字鹿中2-58-253  
TEL:0176-58-6171  
URL:<http://www.misawa-noukameshi.com>



「自己実現のまち七戸」を体現する

# 七戸ドラキュラde まちおこし



七戸ドラキュラdeまちおこし実行委員のみなさん。二宮礼子代表(写真最右)、疋清悦副代表(写真最左)

2011年、新幹線駅開業後のまちづくりについて地域ぐるみで協議するために開催された「100人会議」から生まれたアイデアが「七戸ドラキュラdeまちおこし」だ。

七戸町の名産のニンニクとトマト、国内最大級のヒナコウモリの繁殖地、そして中世の城跡があることから「ドラキュラ」のイメージに結びつけた。実行委員会にのみやれいこ(二宮礼子代表)は主に町内の有志で構成されており、イベントの開催や町内飲食店でドラキュラに関連したメニュー開発など、多岐にわたって町おこしを展開している。副代表で自身もUターン者であるさそうせいえつ(有みちのく農産代表 疋清悦)さんは、

「子どものときに地元のイベントが楽しかったという思い出はUターンの理由になる」と語り、農家として働きながら子どもたちが楽しめるイベントを企画する。

この活動の一番の成果は、ドラキュラのキーワードで多くの人が繋がるようになったことだ。七戸町は人口約16,000人、高齢化率37%の比較的小さな町であり、それは一見すると短所のようにも思えるが、裏を返せば小さな規模で何でもできるということ。町の資源を活用してチャレンジしたいと声を挙げれば、「ドラキュラ」にいる誰かが「それならできるよ!」と言ってくれる。

「自己実現のまち七戸」を体現するドラキュラの活動に今後も乞うご期待!



2015年ドラキュラフェスタの一場面。幅広い年齢層の住民が仮装しており、町全体での盛り上がり伝わってくる。

ドラキュラのネットワークを活用して開発されたポルトガルの伝統調味料「パプティーマッサ(マッサ)」



七戸ドラキュラdeまちおこし 公式facebook

「ドラキュラ」をキーワードにしたイベントや商品の情報を随時発信!

URL: <https://www.facebook.com/dracula.de.machiokoshi/>

七戸ドラキュラ

検索



「かっこいい」より

「おもしろい」を目指して

# ダンス ワグ DANCE WAG

ぬまお

代表 **沼尾 みやこ**さん



☞ ジャズダンス講師の沼尾さん。「ジャズダンスは音楽に制限がなく自由なところが魅力」と語る。

は2003年から不定期で公演を行っており、今回で7回目となる。2017年12月に八戸市公会堂文化ホールにて行ったダンスライブ“DOMBA”では、ホールの収容人数いっぱい約500人の動員を記録した。DANCE WAGの公演で最も特徴的な点は“笑い”である。会場には観客の笑い声が響きわたり、公演後には「メンバーが楽しそうに踊っている姿を見て元気をもらった」という声も多いという。その親しみやすさから、ホールにはカップルや家族連れ、年配の方まで幅広い世代の観客が訪れ、チケットのキャンセル待ちも相次いだ。

「かっこよかったと言われるのも嬉しいが、それ以上に面白かったと言われたい。その方が次につながる気がするから」と沼尾さんは笑顔で語る。今後は機会があれば県内各地でのイベントにも挑戦してみたいと意欲を見せた。

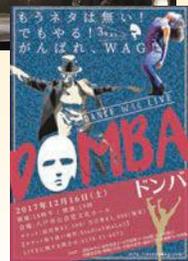
結成30周年となるDANCE WAGは、県内で活躍する女性ジャズダンスチームである。彼女達が主催するダンス公演には毎回多くの来場者が訪れ、地域に賑わいをもたらしている。その創設メンバーであり、現在代表として振付、構成を担当しているのが三沢市出身の沼尾みやこさんだ。

10代の頃よりジャズダンスを始めた沼尾さんは、ダンスを学ぶため数年間東京で修行をした経験を持つ。地元三沢市へ帰郷後、念願のダンススタジオを設立し数々のダンサーを育成した。現在は八戸市、十和田市などでレッスンを受け持っている。

沼尾さんが代表を務めるDANCE WAG



☞ 観客の目線に立ち、「何をされたら面白いか」を常に考え演出に生かしているという。



## Studio 5MaLu2

青森県八戸市田向毘沙門前39-3

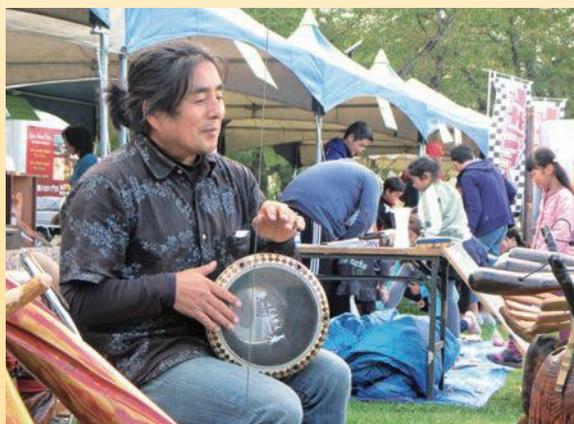
TEL:0178-51-6072

URL:<http://5malu2studio.wixsite.com/5malu2-studio>



# 科学工房 〈げんしじん〉

もだし ひろし  
**萌出 浩** さん



👉 地域のイベントにて手作りの楽器を演奏、魅力を伝えている。

中で子どもたちに創造性・感受性・自主性を育むような体験を提供するものだ。講座内容はたき火体験や、木を利用したブランコ、アスレチック、ベンチ、ツリーハウス作りなど、モノづくりの楽しさや自然への親しみを感じられるものとなっている。

萌出さんは次のように語る。「青森県の魅力は、豊かな資源とのんびりとした環境の中で、体ひとつでいろんなことにチャレンジできること。不便が人生をハッピーにする!!」

東北町で科学実験講座を行っている科学工房〈げんしじん〉。大人から子どもまで楽しめる工夫を凝らした講座を行っている萌出浩さんに話を聞いた。

科学実験講座を始めたきっかけは、1987年に仮説実験授業と出会ったことだ。科学教育手法の一つである仮説実験授業の「物事を見通そうとすると、仮説を立てて実験するのが有効」という理念に魅せられ、以後30年に渡り科学教育に携わっている。

科学工房で行っている科学実験講座は多岐に渡る。田舎の不便さをハンデとせず、地域の森林を利用した地産地消型の講座を行っている。その中でも、2014年から取り組んでいる「森の保育園」を紹介したい。この活動は、豊かな自然の



👉 自作の火起こしキットで火起こしを披露してくれた。  
👉 スギで自作した「ジャンベ」。  
2018年から楽器づくりのワークショップ開催を予定している。



科学実験講座のご相談はこちらまで!  
お楽しみ科学実験出前屋&  
ゆびぶえ演奏家  
科学工房〈げんしじん〉 萌出 浩  
TEL/FAX:0175-63-3790  
E-mail: modshi@khaki.plala.or.jp  
Facebook: <https://www.facebook.com/hiroshi.modashi>



# イラストレーター

あんざい まさる  
**安齊 将** さん

ウマジンを被った安齊さん。



駒の街・アート街十和田市。馬のオブジェが多く点在する小さな街で、ウマジンを被り街を歩く人たちがいるのをご存知だろうか。ウマジンとは、段ボールで作られた馬頭状の被り物のことで、2014年にグッドデザイン賞も受賞した駒とアートの融合体だ。十和田青年会議所が地域を盛り上げるため“楽しさ・シンプルさ・南部駒踊り”をヒントに、試作を重ねて生まれたのがウマジンだ。

そのウマジンのデザインを担当した安齊将さん（神奈川県横浜市出身）は東京でイラストレーターとして活躍していたが、十和田市でアートの街づくりが始まったことをきっかけに芸術活動の拠点を移した。もともと社交的な方ではなかったという安齊さんだが、ウマジンとしての活動が自分を十和田市に馴染ませてくれたという。ウマジンを被ったときの恥

ずかしさは高揚感と連帯感を生み、肩書や言語の壁を越え、全ての人が平等にまわりと仲良くなることが出来る。「ウマジンは世界を平和にするコミュニケーションツールだ」と安齊さんは語る。

平内町のトリジン、大鰐町のワニジン、八戸市白銀町のイカジンなど、ウマジンの輪は十和田市で留まることなく各地に広がりを見せている。安齊さんの目標は言うまでもなく、ウマジンで世界を平和にすること。十和田といえば馬。産業革命以前の乗り物といえば馬。そんな馬だからこそ世界中どこへ行ってもつながっていく。そんな想いを胸に今日もウマジンは歩いていく。



十和田市現代美術館前にて。美術館の雰囲気と絶妙にマッチしている



**安齊研究所**

URL: <http://facebook.com/anzailab>  
E-mail: [anzaimasaru@gmail.com](mailto:anzaimasaru@gmail.com)

